

三光クリニック

さい じんかん

崔 仁煥 院長

内科・消化器内科・胃腸科

前 順天堂大学 消化器内科 前任准教授

現 順天堂大学 消化器内科 非常勤講師

蒲田駅西口から徒歩 3 分。「三光クリニック」は 1976 年に開業しました。2016 年 7 月に 2 代目院長に就任した崔 仁煥（さい じんかん）は、30 年間の長きにわたり順天堂大学の消化器内科で研鑽しました。内視鏡と超音波の症例数を合わせると 10 万例以上の経験を有します。院内は、患者が落ち着けるように癒やし効果のあるアロマも香ります。スタッフたちも皆にこにここと笑顔で患者に接しています。「どんな病気も早期発見・早期治療、さらに予防ができれば予後は明るい。地域の方々がずっと健康で暮らせるように役に立っていきたい」という思いで開業いたしました。

幅広い領域の診療をめざす

— 医院を引き継こうと決心した理由

30年勤めた順天堂大学をやめ、地元に戻ってきたのは、クリニックで「日々のかかりつけ医」として、全科にわたって病気の早期診断・治療、さらには予防を行いたかったからです。がんであるかどうかにかかわらず、病気はその人の人生に大きく関わってきます。そのため、生活習慣病の早期診断、予防はとても重要です。また、症状も出にくく気がつきにくい大腸、胃、すい臓、肝臓、胆のうのがんは早期診断が要の病気です。さらに、病気にならないための予防も大切です。これまで順天堂で培った医療を実践し、皆さまの役に立つことがこれからの私の使命だと思っています。



一院長の専門について

専門は、消化器全般と内科全般です。

日本内科学会・総合内科専門医、
日本消化器内視鏡学会・内視鏡専門医、
日本消化器病学会・消化器病専門医、
日本膵臓学会・認定指導医、
日本肝臓学会・肝臓専門医、
日本超音波医学会・超音波専門医
日本消化器集団検診学会・専門医
日本がん治療認定医
日本医師会・認定産業医、
難病指定医

などの資格を持っています。また、

日本消化器内視鏡学会・評議員
日本消化器病学会・評議員
日本胆道学会・評議員

日本膵臓学会・前評議員

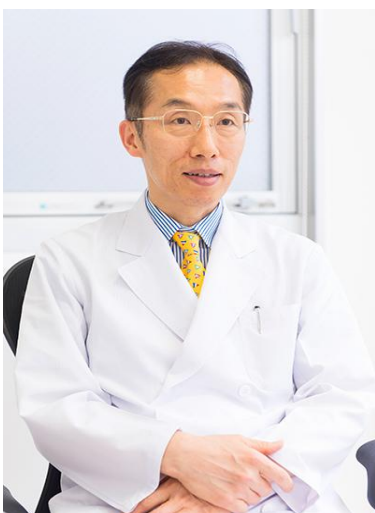
でもあります。三光クリニックは、従来より胃・大腸がんの早期診断を中心に診療を行ってまいりました。私は、大腸や胃に加え、膵臓・肝臓・胆のうがんの早期診断も行っています。私は、順天堂大学において、がんを含めた消化器疾患の早期診断を30年間研究し、それを臨床でも実践してきました。内視鏡と超音波を合わせた経験数は10万例以上です。また、10,000例以上の消化器がんの診療に携わってまいりました。高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病や循環器・呼吸器疾患にも力を入れています。

ークリニックで行っている

「苦痛の少ない胃や大腸の内視鏡検査」

早期発見により完治可能ながんが増えていますので、皆さまには積極的に検査を受けていただきたいと思います。そのためにも、当院では「痛くない大腸カメラ」、

「苦しくない胃カメラ」をめざしています。具体的には、まず軽い鎮静をかけ、検査に伴う緊張をやわらげます。そして、「高度な技術」+「高能力カメラ」+「豊富な経験」により、短時間で正確な診断をきわめて楽に、痛みを最小限にして行います。胃は5分、大腸は10分程度で終わります。病変があったときはその時点で処置もします。処置にかかる時間は10分程度。また、検査で胃や腸管を膨らませるときは、炭酸ガスを使用し、検査後の膨満感を抑えます。当院は検査後にアンケートをとっていますが、検査を受けた99%の方が「痛くない」「苦しくない」と回答しています。検査に対してつらいイメージを持っている方も、どうか安心して受けてほしいと思います。



早期発見・早期治療に重点を置き、完治をめざす

—早期診断には熟練が必要です

当院はすべて保険診療、内視鏡も超音波も最新の機器を使用しています。内視鏡は、NBI（狭帯域光観察）という観察手法で粘膜表面の毛細血管を浮かび上がらせることにより、病変部を見つけ出します。これを使ってより早期のがんを発見できるようになりました。ただし、機器が新しいだけではだめで、医師の熟練度が最も大切です。症例をいかに数多く経験しているかで、まったく違う結果になる場合があります。CT・MRI・PET は最新の機器と提携し、読影は医師が3段階でチェックしています。内視鏡と超音波を合わせた検査数が10万例以上という豊富な経験を有する院長が、直接検査や読影を行うことにより、大腸や胃だけ

ではなく、沈黙の臓器、膵臓、肝臓、胆のうのがんも早期に診断できる可能性が高まります。



—早期発見で印象的なケースについて

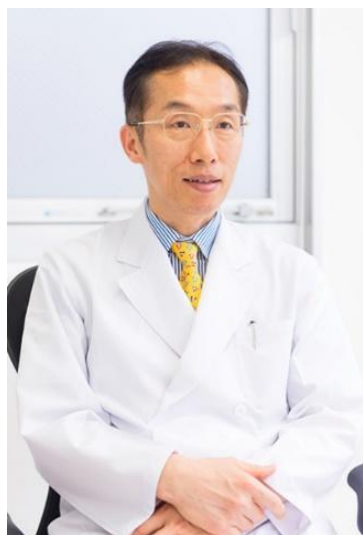
私は順天堂大学で診療を行っていましたが、かかったら助からないと言われている膵臓がんでも、早く見つかったことで、5年、10年と元気に通ってこられる患者さんをたくさん経験しました。大腸や胃、肝臓、胆のうも同じことが言えます。ただし、内視鏡検査で発見可能な大腸や胃の病気に比べ、すい臓・肝臓・胆のうは、まだまだ早期診断が難しく、診療には豊富な

経験が必要とされますが、この領域に熟練した医師はきわめて少ないのが現状です。診断の難しい病気を少しでも早く治療に導いて、生活や仕事を満足にできるようにして差し上げることが、私に与えられた使命であります。

—今後の早期診断の展望

今後は遺伝子やアミノ酸、AIを用いたがんの早期診断が発展していくと思います。CTは被ばく量を最小限にしたものが普及していきまますし、MRIの開発もどんどん進むでしょう。カプセル内視鏡もますます容易になるでしょうし、早期診断のための検査は本当に簡便になっていくと思います。そして、病気を早期に診断することにより、大きな手術にかわって低侵襲技術を用いた治療がますます広まると考えられます。同時に、患者さん個々に適切な治療法を提供できる個別化医療、病気が発生する前に対処する予防医療もさらに進歩するでしょう。クリニックでは、院長ブログや

ホームページ、メディアなどを通じて常に最新の医療情報を提供できるよう努めてまいります。



最も大切にしてきたもの、
それは「仁」

—患者さんへの丁寧な説明を心掛けて
います

患者さんへの説明は最も大切にしていきます。診察室

で検査の画像やデータをモニターで見えていただき、認識を持っていただくように努めています。簡単な絵を書きながら説明すると、患者さんにはよくわかっていただけるようです。ご要望があれば、検査の最中に画像の説明をしたりもします。ご自分の状態がよくわかるので、患者さんにも前向きになっていただけます。



—院長のリラックス法について

インドア、アウトドア、両方の趣味があります。インドアではくつろいでワインを楽しんだり、音楽を聞いたりコンサートに出かけたり。アウトドアでは旅行ですね。全国津々浦々回るのが好きで、先日は京都に

出かけました。ランニングも好きで、家の周り、近所の公園を走っていますが、気が向けば東京タワーまで行ってしまいうこともあります（笑）。

—皆さまへのメッセージ

私が最も大切にしてきたもの、それは「仁」です。仁とは「人在りて我あり、他を思いやり、慈しむ心」。私たちがクリニックで提供するすべての医療行為の基本となっています。今後も、「痛くない大腸カメラ」、「苦しくない胃カメラ」、さらにはすい臓、肝臓、胆のう、生活習慣病の早期診断・治療を中心に、皆様に貢献してまいりたいと考えております。

